

## 部長宣言

総務部長

企画財政部長

地域社会部長

市民部長

健やか部長

福祉部長

環境部長

都市整備部長

学校教育部長

生涯学習推進部長

消防長

水道局長

議会事務局長

		部長宣言		方針	
部等名称	総務部	部長	河野宏甲		
総合計画・暮らしの夢（主要）					
つながりを大切に、まちの職員がほどよく支える暮らし					
この組織の施策の柱と目的					
施策の柱	施策名と目的				視点
職員の能力開発、人材育成の推進	職員の能力開発				自治 自助
	職員一人ひとりの能力や可能性を最大限に引き出せることができる環境づくりを推進するとともに、目標管理による職員の意識改革の推進、人材育成を図る。				
コンプライアンスの確立	職員のコンプライアンスの確立				自治 自助
	職員一人ひとりが法令を遵守し、全体の奉仕者として市民に対して、常に誠実で公正公平に職務を遂行できる組織の確立を図る。				
情報施策の充実	情報施策				自立 共生
	市の政策・事業に関する情報や市民生活に必要な情報等を市民にわかりやすく提供する。また、公平公正で開かれた市政の運営を推進するために情報公開制度の適切な運用と個人情報の適正な管理に努めるとともに、庁内・広域のネットワーク環境や機器の整備・運用、管理を行う。				
適正な定員管理と給与管理	定員管理と給与管理				自治 自立
	人材育成と職員の士気の高揚を配慮しながら職務給の原則、均衡の原則等に基づき、適正な給与水準の維持に努める。行政需要や職員構成に考慮し、事務事業や事務量に応じた職員の定員管理を図る。				
部長として果たそうとする役割、責任					
市民等利害関係者に対して	市民ニーズの把握と的確な情報発信に努め、交野の魅力を更に高める。全庁的な法務能力の向上を図り、市民の福祉の増進に資する。				
市長・議会に対して	情報の共有に努め、市長や議会の意図するところを的確に把握し、情報提供、説明責任を果たす。				
特に重点的に取り組もうと考えていること					
当面の重点的取組み			中期的にみた重点的取組み		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標管理型評価制度の運用</li> <li>・適正な定員管理と職員配置</li> <li>・職員の法務能力の向上</li> <li>・公益通報制度の運用</li> <li>・職員の健康管理とメンタルヘルス対策</li> <li>・情報戦略の策定</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価制度を踏まえた人材育成計画の策定</li> <li>・多様な情報発信ツールの検討</li> </ul>		
部長としてチャレンジしてみたいこと、前年度評価					
堅実性、信頼性を高めるために	28年度	目標管理型評価制度を導入することにより、職員の更なる意識改革とスキルアップを図り、前例に捕らわれずに積極的に自らが問題に立ち向かい解決していく職場風土を醸成する。			
	27年度	自己決定・自己責任による行政推進のため、職員の更なる意識改革と能力の向上を図る。組織でのコンプライアンスの確立【評価:B】			
創造性、面白さを求めて	28年度	時代の潮流を常に意識しながら積極的な情報収集を図るとともに、新しい発想やアイデア、チャレンジが生かされるよう市役所の構造転換を図る。			
	27年度	交野の特性を生かした行政運営を目指し、積極的な情報収集とともに、新しい発想やアイデア、チャレンジが生かされるよう市役所の構造転換を図る。【評価:C】			

※前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言		組織力	
部等名称	総務部		部長	河野宏甲	
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状					
強み	全庁的な情報、動きを把握できる 情報の受発信機能がある		弱み	業務量の増加	
	機会		脅威		
変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法律の専門職員の採用</li> <li>・目標管理型評価制度の本格実施</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務事業の複雑化・多様化</li> <li>・情報セキュリティの脅威</li> </ul>		
取組	<b>【機会を生かすための取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全庁的な法務能力の向上を図る</li> <li>・職員の更なる意識改革とスキルアップを図る</li> </ul>		<b>【脅威を変えるための取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やりがいのある職場、仕事・環境をつくる。</li> <li>・効率的な事務の推進</li> </ul>		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと、前年度評価					
仕事の流れ (双方向)	(継続) 組織での情報の共有化と役割分担の明確化・通常業務のマニュアル化 【評価:B】 (完了) 指示命令系統の統一化 【評価:A】				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	(継続) 的確な情報伝達と意思決定 【評価:B】 (継続) 職員個々の知識・能力の向上と、業務効率化の推進 【評価:B】				
意思決定 (仮説・スピード)	(継続) 業務の明確な把握と重要度、緊急度のみきわめによる優先順位による業務執行 【評価:B】 (継続) 先を見通し、すばやく行動できる職場環境づくり 【評価:C】 (継続) 職員の政策形成能力やプレゼンテーション能力の向上 【評価:C】				
組織文化 (開放的・自発性)	(継続) コミュニケーションが活発で風通しの良い職場づくり 【評価:B】 (継続) 違いを認め合い、個人の長所を活かしながら、組織として結果の出せる体制づくり 【評価:B】 (継続) 指示待ちではなく、行政のプロとして自ら研究し課題解決できる職員の育成 【評価:B】				
組織構造 (分権・変化対応)	(継続) 部内会議、課内会議の定期的な開催による職員間の情報共有、部内、課内の調整 及び応援体制の確立 【評価:A】				
価値観 (創造性・つながり)	(継続) 新しい発想やチャレンジが生まれ、活かされる職場風土づくり 【評価:B】				

※(継続)(完了)に係る前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言		方針	
部等名称	企画財政部	部長	良 幸 浩		
総合計画・暮らしの夢（主要）					
つながりを大切に、まちの職員がほどよく支える暮らし					
この組織の施策の柱と目的					
施策の柱	施策名と目的				視点
公設秘書	市長の公設秘書				自立 共生
	市長・副市長の公務を管理するとともに、指示事項の調査や、関係機関等との調整を図り、的確な判断及び適切な施策実施ができる環境を整える。				
行政経営の推進	総合的な行政経営の推進／役立つ行政経営組織の構築／広域的な行政活動の推進／交野ふるさと寄附				共生 共助 共感
	経営的視点を踏まえ、各部局が実施する施策・事業について政策・財政コントロールを行うとともに、市長戦略及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の推進を図る。				
健全な財政運営の推進	健全な財政運営の推進				自立 共生
	社会経済情勢等を踏まえ、施策・事業の選択と集中とともに財源の確保を図り、財政基盤の強化を図る。 市長戦略財政プランの進行管理を適切に行う。				
公有財産の適正管理	普通財産の管理処分／地方公会計の整備推進／交野市公共施設等総合管理計画の策定				自立 共生
	ファンリティマネジメントの視点を踏まえ、公共施設等総合管理計画を策定し、公有財産の適正な維持管理とともに、利活用を図る。				
部長として果たそうとする役割、責任					
市民等利害関係者に対して	社会経済情勢や市民ニーズを踏まえ、効率的・計画的な行財政運営を推進するとともに、適切な情報発信を行う。				
市長・議会に対して	行財政の経営管理を担う部として、円滑な組織運営に努める。 施策等について適切な情報提供を行うとともに、説明責任を果たす。				
特に重点的に取り組もうと考えていること					
当面の重点的取組み			中期的にみた重点的取組み		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次総合計画基本構想第2ステージの推進</li> <li>・市長戦略及びまち・ひと・しごと創生総合戦略における各施策の制度化や事業実施の調整、進行管理等</li> <li>・公共施設等総合管理計画の策定</li> <li>・教育大綱の進行管理</li> <li>・マイナンバー制度の対応</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次総合計画基本構想の推進</li> <li>・市長戦略及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の推進</li> <li>・公共施設等総合管理計画の推進</li> <li>・教育大綱の推進</li> <li>・地方分権、権限移譲に対する対応</li> </ul>		
部長としてチャレンジしてみたいこと、前年度評価					
堅実性、信頼性を高めるために	28年度	・各部局と適切に情報共有するとともに連携を図りながら、スケジュール感を持って円滑に市長戦略等を推進する。			
	27年度	・各部局と情報を共有するとともに連携を図りながら、円滑に施策を推進する。 【評価:B】			
創造性、面白さを求めて	28年度	・市民の視点に立った新しい発想やアイデア、チャレンジが活かされる組織づくり。			
	27年度	・市民の視点に立った新しい発想やアイデア、チャレンジが活かされる組織づくり。【評価:B】			

※前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言		組織力	
部等名称	企画財政部	部長	良 幸 浩		
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状					
強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全庁的な情報、動きを把握できる</li> <li>・部内で連携を図ることができる</li> </ul>		弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務量の増加、業務内容の複雑化</li> </ul>	
	機 会		脅 威		
変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市長戦略及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の推進</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務事業の複雑化・多様化</li> <li>・公共施設の老朽化</li> <li>・財政の硬直化</li> </ul>		
取組	<b>【機会を生かすための取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部局と適切な情報共有とともに連携を図りながら、円滑に市長戦略等を推進する。</li> <li>・市長戦略等の推進に伴い、市民等へ適切に情報提供を行う。</li> </ul>		<b>【脅威を変えるための取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全庁的な情報共有を図る。</li> <li>・職員の企画、提案、自主改善行動を奨励し、人材力を発揮させる。</li> <li>・やりがいのある職場環境をつくる。</li> <li>・スケジュール感をもった効率的な業務遂行を推進する。</li> </ul>		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと、前年度評価					
仕事の流れ (双方向)	(継続) 部内課内会議の充実と情報共有【評価:B】 (継続) 通常業務のマニュアル化【評価:B】 (完了) 各種方針、施策等の共通理解【評価:A】				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	(新規) 定期的な職員との面談 (継続) スケジュール感をもった効率的な業務遂行【評価:B】 (継続) 適切なタイミングでの報告・連絡・相談【評価:B】 (完了) 業務を通じてのコミュニケーション【評価:A】 (完了) 目標管理型評価制度(試行)の活用【評価:B】				
意思決定 (仮説・スピード)	(継続) 的確な指示、情報伝達【評価:B】 (継続) 業務効率化の推進【評価:B】 (継続) 職員の能力向上【評価:B】				
組織文化 (開放的・自発性)	(継続) 気軽に自由な議論ができる風通しの良い組織づくり【評価:B】 (継続) 業務改善等の職員提案の機会づくり【評価:C】				
組織構造 (分権・変化対応)	(継続) 複数の者による業務遂行、チェック体制の確立【評価:B】 (継続) 部内での連携や応援体制の確立【評価:B】 (継続) リスクマネジメントの実践【評価:B】				
価値観 (創造性・つながり)	(継続) 新しい発想やアイデア、チャレンジが活かされ、やりがいを感じられる職場づくり【評価:B】 (継続) 市民の視点、市民との協働を意識した業務遂行【評価:B】				

※(継続)(完了)に係る前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言	方針
部等名称	地域社会部	部長	倉澤 裕基
総合計画・暮らしの夢（主要）			
まちが働く舞台となり、みんながつながる元気な暮らし			
この組織の施策の柱と目的			
施策の柱	施策名と目的		視点
市民活動の振興及び市民との協働の推進	市民活動団体等との連携づくり／地域ぐるみのまちづくり 市民の自主的な活動を支援するとともに、行政と市民との連携を深め、協働によるまちづくりを進める。		自立 共生 共感
地域産業の活性化及び観光の振興	商工業の振興／観光振興／農業の振興 交野市の自然や歴史・文化等の地域資源を活かし、商業・工業・農業等の産業と観光が連携した地域経済の活性化に努める。		自然 共生 共助
相談体制及び就労支援の充実	市民相談の充実／就労支援の充実 相談窓口の一元化による市民相談、専門相談体制等の充実及び就労困難者に対する支援等を図る。		共助 共生
人権・消費者保護	人権政策の推進／平和政策の推進／男女共同参画の推進／消費者相談及び啓発、情報提供の充実 市民一人ひとりが個人として尊重される社会を目指し、人権意識の高揚を図る。 消費者相談の機能強化と充実及び消費者教育の啓発を図る。		自助 共助
防災・防犯施策	防災・防犯対策の推進 市民の生命・身体・財産が守られるよう減災を図るとともに、犯罪発生を地域ぐるみで未然に防止する。		自助 共助
交通安全施策	交通安全対策の充実 安心安全な交通社会実現のため、交通安全思想の普及と浸透を図る。		自助 共助 共生
部長として果たそうとする役割、責任			
市民等利害関係者に対して	市民や事業者、関係団体等との共感を大切にし、行政主導ではなく、市民等が自ら動けるようなサポートを行う。		
市長・議会に対して	情報の共有に努め、市長や議会の意図するところを理解するとともに、自らの立ち位置を誤ることなく、的確に説明責任を果たす。		
特に重点的に取り組もうと考えていること			
当面の重点的取組み		中期的にみた重点的取組み	
組織やイベント相互の連携及び交野の魅力発信 地震、風水害等の被害を最小限にとどめる減災対策 地域防災計画に基づく各マニュアルの改訂 市内防犯灯のLED化、防犯カメラの設置 産業振興基本計画の進行管理 男女共同参画推進計画の進行管理		市民等の自主的・主体的な地域振興及び産業振興 実行性の高い危機管理体制の構築	
部長としてチャレンジしてみたいこと、前年度評価			
堅実性、信頼性を高めるために	28年度	関係諸団体と顔の見える関係づくりを通して、それぞれの役割分担・自主性を支援し、連携を進めて信頼関係を構築していく。	
	27年度	市民が安全で安心して暮らせるために、国、府や市内の自主防災組織等と連携を図りながら防災・減災対策に努める。 産業振興、男女共同参画等の諸計画について、市民、事業者、地域等と連携、協力しあいながら実効性のあるものにしていく。【評価:A】	
創造性、面白さを求めて	28年度	新たな事業へ積極的に取り組むとともに、職員がやりがいのある仕事と思えるような環境づくりを目指す。	
	27年度	市民、事業者、地域等が自発的な活動ができるようにサポートを行うとともに、職員が市民等と楽しく仕事ができるような環境を創出する。【評価:A】	

※前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言		組織力	
部等名称	地域社会部		部長	倉澤 裕基	
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状					
強み	小さな組織で、職員が若く、個性豊かで積極的 多様な外部の担い手とのつながりがある		弱み	業務分野が多岐にわたり膨大で、かつ流れが不安定 「地域経営」の概念と現実とのギャップ	
機会			脅威		
変化	自主防災組織での防災訓練等の実施による、防災、減災に対する地域の意識向上		市民ニーズ、価値観の多様化 市民活動の担い手の高齢化 自然災害の多様化、大規模化		
取組	【機会を生かすための取組】		【脅威を変えるための取組】		
	地域が行う訓練等への支援		幅広い情報収集 次世代が参画しやすい仕組みづくり		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと、前年度評価					
仕事の流れ (双方向)	(継続)組織での情報の共有化と役割分担の明確化【評価:B】 (継続)通常業務のマニュアル化【評価:C】 (完了)指示命令系統の統一化【評価:A】				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	(継続)的確な情報伝達と意思決定【評価:B】 (継続)職員個々の知識・能力の向上と、業務効率化の推進【評価:B】				
意思決定 (仮説・スピード)	(継続)業務の明確な把握と重要度、緊急度の見極めによる優先順位による業務執行【評価:B】 (継続)先を見通し、すばやく行動できる職場環境づくり【評価:B】 (継続)職員の政策形成能力やプレゼンテーション能力の向上【評価:C】				
組織文化 (開放的・自発性)	(完了)コミュニケーションが活発で風通しの良い職場づくり【評価:A】 (継続)違いを認め合い、個人の長所を活かしながら、組織として結果の出せる体制づくり【評価:B】 (継続)指示待ちではなく、行政のプロとして自ら研究し課題解決できる職員の育成【評価:C】				
組織構造 (分権・変化対応)	(継続)部内会議、課内会議の定期的な開催による職員間の情報共有、部内、課内の調整及び応援体制の確立【評価:B】				
価値観 (創造性・つながり)	(継続)新しい発想やチャレンジが生まれ、活かされる職場風土づくり【評価:B】 (継続)研修参加を促すとともに、市民や学生など多様な担い手との対話の機会創出【評価:A】				

※(継続)(完了)に係る前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言	方針
部等名称	市民部(税務室含む)	部長	盛田 健一
総合計画・暮らしの夢(主要)			
多様な人とふれあい、文化と人権意識をはぐくむ明るい楽しい暮らし			
この組織の施策の柱と目的			
施策の柱	施策名と目的		視点
窓口業務の充実	戸籍、住民基本台帳、印鑑登録等窓口業務の充実		共感 自立 共助
	各窓口/星田出張所/葬祭等許可業務、市営葬儀/秩序ある市街地整備 わかりやすい窓口の推進とともに、証明発行コーナーを開設し効率化を図る。 住民票等コンビニ交付サービスを推進し、市民の利便性を高める。		
個人番号カード等の適切な交付と管理運営	住民の基礎データの保管と適切な管理と運用		自助 共治
	個人情報 の安全管理と運営に努める。 個人番号カード交付事務の順調な遂行と交付率の向上を図る。		
国保制度、後期高齢者医療制度、国民年金制度の適切な運営	国保財政の健全化と医療費の適正化、国民年金、後期高齢者医療事務の適切な運営		共助 共生 自立
	保険資格、給付管理の適正化と保険料の収納強化を図る。 国民年金制度の適切な運営と市民への情報提供に努める。		
市民の健康の保持増進	保健事業の推進		自助 共助 共生 自立
	特定健診の受診率を目標値に近づける。医療が必要な場合は医療につなげる。 特定保健指導率を目標値に近づける。生活習慣病の予防を行い市民の健康の保持増進に努める。		
地域コミュニティ施設の整備充実	星田コミュニティセンターの活用と維持管理		自助 共生
	市民活動が充実できるようにセンターの管理運営を行う。		
市税の適正な賦課・徴収	市税の適切な賦課事務・徴収事務の遂行		自立 共生
	税の公平・中立・簡素の原則を踏まえ、適正に市税の賦課・徴収事務を行い、安定した市税収入の確保とともに、市民の信頼を高めていく。		
部長として果たそうとする役割、責任			
市民等利害関係者に対して	法律、制度の改革等を踏まえて、計画的で持続可能な施策により市民の利益の向上に努める。		
市長・議会に対して	意見やニーズを提供いただき、市民にとってより良い施策を築けるように、対話と理解を行う。		
特に重点的に取り組もうと考えていること			
当面の重点的取組み		中期的にみた重点的取組み	
<ul style="list-style-type: none"> <li>個人番号カード交付事務の順調な遂行</li> <li>個人情報の安全管理と適切な運用</li> <li>住民票等コンビニ交付事業の順調な運営</li> <li>証明発行コーナーの開設</li> <li>ジェネリック医薬品使用率を高める</li> <li>税務室と連携し、保険料収納対策の強化を図る。</li> <li>保健事業に健康ポイントを付与し受診率向上を目指す</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>窓口業務体制の見直し(コンビニ交付、証明書発行コーナー実施後の影響を踏まえて)</li> <li>国保制度の都道府県単位の広域化への対応</li> <li>医療費適正化に向けての施策を進める</li> <li>国保保健事業と健康増進事業の効率的運営</li> <li>星田出張所の今後について</li> </ul>	
部長としてチャレンジしてみたいこと、前年度評価			
堅実性、信頼性を高めるために	28年度	職員の能力を向上し組織として新規事業に堪え得る力を獲得できる。	
	27年度	1階業務の効率的な体制について部を跨いで検討する【評価:A】 法改正において、的確な情報の収集及び、近隣各市との連携による情報交換を図ることにより適正な業務運営を実施する【評価:A】 「ホウレンソウ」の習慣づけと情報の共有化を図る【評価:C】	
創造性、面白さを求めて	28年度	部内で窓口業務検討チームを設け、専門性の高い業務とルーティーン業務の分離を試みる等引き続き検討する。	
	27年度	繁忙期には課を越えて応援できる体制【評価:B】 将来を見据えた窓口業務、市民目線に立った窓口業務の研究【評価:A】	

※前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった



		部長宣言		組織力			
部等名称		市民部		部長		盛田 健一	
<b>部の現状と取り巻く環境変化</b>							
<b>組織の現状</b>							
強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住基データの保管と運用</li> <li>・市民に一番身近な職場</li> <li>・国の保険制度、年金制度を支えている</li> <li>・専門性の高い業務に対応している</li> </ul>			弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法制度の改正に拠る影響を受けやすい。</li> <li>・専門性の高い業務とルーティーン業務の混在</li> <li>・正職員の縮小や異動に伴い、臨時職員に頼る面も多い。</li> <li>・専門性が高い業務であるがマニュアルがない。</li> </ul>		
	<b>機会</b>				<b>脅威</b>		
変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窓口業務の多様化</li> <li>・一層の個人情報の安全な管理体制</li> <li>・健康ポイント制度の開始</li> <li>・人事評価制度導入による個人目標の明確化</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度(国保・年金・後期高齢者医療)の市民への影響が大きい。</li> <li>・専門性が求められる事務処理能力</li> <li>・新規業務に対応できる組織力</li> </ul>			
	取組	<b>【機会を生かすための取組】</b>			<b>【脅威を変えるための取組】</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の安全な取扱いによる危機管理意識の向上</li> <li>・新規業務の実施を機会に組織力向上の方法を探る</li> <li>・知恵を行動に代える学習機会を作る</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種制度から市民の権利と義務を明確にし、制度理解を求める</li> <li>・高齢者障がい者に優しい窓口対応</li> <li>・タフな職員になるために、新しい知識の習得と共有、日々研鑽</li> <li>・マニュアルの作成</li> </ul>				
<b>部長として組織力を発揮させるためにしたいこと、前年度評価</b>							
仕事の流れ (双方向)		(新規) 部長→課長→係長→職員が一方的でない組織作り (継続) 総合計画、部長宣言と連動した施策や事業計画の作成と検証【評価:B】 (完了) 窓口業務と内部業務の連携による迅速な事務処理【評価:B】					
重点管理手法 (ビジョン・対話)		(新規) 人事評価制度を用いた個人計画のチェックとサポートの指示 (継続) 年度2回の職員ヒアリングを行い、職員の意見や悩みを把握する。【評価:A】 (完了) 部の業務決定事項等の実施と業務管理【評価:B】					
意思決定 (仮説・スピード)		(新規) 係長以上管理職力のアップ (継続) 各職員が責任を持てる範囲での意思決定力と説明力の向上【評価:B】 (完了) 部内会議での情報共有と意思決定【評価:A】					
組織文化 (開放的・自発性)		(新規) 課題からのチームプレー (継続) 個人の長所を發揮し、組織で最大の効果(結果)を挙げる組織づくり【評価:B】 (完了) 職員同士が情報を共有し協力し合える体制づくり【評価:B】 (完了) 学び合い向上し合える組織づくりを始める【評価:C】					
組織構造 (分権・変化対応)		(新規) マニュアルを作成し、各職員の業務、チェック体制を確立し係内で確認し合う (継続) 係長会議の実施でチームワークを強化する【評価:B】 (完了) 職員一人一人が業務目標を持ち取組む(人事評価制度の導入)【評価:A】 (完了) 予防を重視したリスクマネジメントの実践、柔軟で機敏な組織をめざす【評価:C】 (完了) 一人一人が危機管理意識、対応能力の向上をめざせる機会の創造【評価:C】 (完了) 総合計画、部長宣言、実施計画を職員が理解する。【評価:B】					
価値観 (創造性・つながり)		(新規) 市長戦略の具体的実施業務を職員が検討する (継続) 職員が待ちの姿勢でなく、市民に積極的にあいさつ声をかけていく。【評価:A】 (完了) 職員提案の場づくり(職員が市長戦略への複数提案)【評価:B】 (完了) 他課との交流、普段から顔の見える関係づくり【評価:B】 (完了) 係長を中心に係のチームワークの形成を図る【評価:C】					

※(継続)(完了)に係る前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言		方針	
部等名称	健やか部	部長	竹田和之		
総合計画・暮らしの夢（主要）					
福祉が充実し、「お互い様」と助け合える人の「わ（和・輪）」に支えられた暮らし					
この組織の施策の柱と目的					
施策の柱	施策名と目的				視点
子ども・子育て支援の充実	子ども・子育て支援				自助 共助 自立
	妊娠から出産、育児、教育と切れ目のない子育て支援の充実を図り、家庭に身近でより利用しやすい子育てサービスの充実をめるとともに、子育てをする家庭や子どもたち自身を地域全体で支えていく地域ぐるみのまちづくりの推進を図る。				
幼児期の学校教育・保育の総合的な提供	保育施策の推進／幼児教育の充実				共助
	子ども・子育て支援新制度に基づき、幼児期の学校教育・保育の総合的な提供、保育の量的拡大・確保、教育・保育の質的改善等の推進に努め、子育て環境の充実を図るとともに、子ども一人ひとりの健全な育成・発達を促す。				
健康づくりと予防の支援	地域医療環境の充実／健康づくりの推進／感染対策の充実／母子保健の推進				共助 共生 自立
	妊娠・出産期から高齢者までの各ライフステージに沿った健康づくりの充実を図るとともに、市民、地域と協働により、住み慣れた地域で心身とも健康でいきいき暮らせるまちづくりの推進を図る。				
障がい児へのきめ細やかな支援	障がい児の福祉の充実				共助 共生 自立
	子どもの心身の発達遅滞や肢体不自由等個別の発達に合わせた療育・指導・訓練等を実施し、集団生活への適応を促すとともに、地域保育所等と連携を図ることで生活範囲や経験を広め、健やかな成長を目指す。				
部長として果たそうとする役割、責任					
市民等利害関係者に対して	市民ニーズを的確に把握し、施策の推進に努めるとともに、的確な情報提供を行い、市民サービスの向上に努める。				
市長・議会に対して	的確な情報の共有・提供に努め、説明責任を十分に果たすとともに、市の施策に反映させるための議論を行う。				
特に重点的に取り組もうと考えていること					
当面の重点的取組み			中期的にみた重点的取組み		
<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども・子育て支援事業計画に基づく事業の推進</li> <li>保育所における待機児童の解消</li> <li>健康増進・食育推進計画に基づく事業の推進</li> <li>公立幼稚園の運営方法の見直し</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世代への切れ目のない支援及び他地域からの子育て世代転入を促すための事業の展開、推進</li> <li>市民の健康増進、健康に対する意識向上を図り、健康寿命を延ばすための事業の展開、推進</li> </ul>		
部長としてチャレンジしてみたいこと、前年度評価					
堅実性、信頼性を高めるために	28年度	部内研修やOJTにより職員の意識改革と能力向上を図る。 市民目線による窓口対応、相談業務等の徹底を図る。			
	27年度	各事業計画の堅実な推進を図り、市民サービスの向上に努める。【評価:B】 市民目線による窓口対応、相談業務等の徹底を図る。【評価:B】			
創造性、面白さを求めて	28年度	積極的な情報収集と分析により、前例踏襲ではなく、市の実情や市民ニーズに応じた施策の検討や業務改善を図る。			
	27年度	市民・地域への情報発信やコミュニケーションを積極的に行い、健康づくり、子育て施策の輪を広げていく。【評価:B】			

※前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言		組織力	
部等名称	健やか部	部長	竹田 和之		
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状					
強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部内各課の情報共有及び業務連携が図れている。</li> <li>・公立と私立及び私立同士の保育園、幼稚園の連携が図れている。</li> <li>・各業務において市民や団体との接点が多く、協働関係を持っている。</li> <li>・専門的資格及び知識を持つ職員が多い。</li> </ul>		弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正職員が減少している反面、業務量が増加している。</li> <li>・国制度や法改正により業務内容が複雑化している。</li> </ul>	
機会			脅威		
変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国制度や法改正</li> <li>・子ども・子育て支援事業計画の推進</li> <li>・健康増進・食育推進計画の推進</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てに関する制度や施策の複雑化</li> <li>・扶助費や負担金等の増加</li> <li>・児童虐待や育児困難家庭等の課題の複雑化</li> <li>・災害及び新型感染症の発生</li> </ul>		
取組	【機会を生かすための取組】		【脅威を変えるための取組】		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業計画推進のための専門性向上及び関係機関との連携</li> <li>・市民、団体との協働強化</li> <li>・業務改善と職員間の情報共有</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間の情報共有と応援体制の構築</li> <li>・補助金、交付金等の情報収集及び活用</li> <li>・災害時マニュアルの確立</li> </ul>		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと、前年度評価					
仕事の流れ (双方向)	(新規) 施政方針や市長戦略、総合戦略、各課所管の計画等の共通認識 (新規) 部内、課内での情報共有と的確な任務分担 (継続) 報告・連絡・相談の徹底【評価:B】 (完了) 一人ひとりが、それぞれの役割を果たせ、また応援できる環境を作る【評価:B】				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	(新規) 各業務における目標、課題の抽出及び目標達成、課題解決に向けた方向性、スケジュールの調整 (新規) 目標管理型評価制度を活用した業務目標の共通認識 (継続) 日常的な職員とのコミュニケーション【評価:B】				
意思決定 (仮説・スピード)	(新規) 目標、課題の的確な把握及び処理並びに部内・課内会議等での情報共有 (新規) 案件の重要度や緊急度による上司の的確な判断及び指示 (完了) 庁内、部内、課内会議などにより、職員間で情報を正確に共有する【評価:B】				
組織文化 (開放的・自発性)	(新規) 職員各個人の長所を活かしながら、組織として結果の出せる体制づくり (新規) 指示待ちではなく、行政のプロとして自ら研究して課題解決できる職員の育成 (新規) 職員がやりがいを持って業務を行い、結果的に市民に親しまれ、好感を持たれる職場づくり (完了) 企画立案や課題解決のための検討の場を設ける【評価:B】				
組織構造 (分権・変化対応)	(新規) 定期的な部内会議、課内会議等での情報共有 (継続) 正副担当制など、複数の職員による応援体制とチェック体制の確立【評価:B】				
価値観 (創造性・つながり)	(新規) 職員が積極的に情報収集、研究し、企画や提案を行い、それが活かされる職場風土づくり (新規) 市民の目線、考え方を常に意識し、業務に反映させる (新規) 他部署との交流、情報交換を図る (完了) 事業に対する目標の設定【評価:B】				

※(継続)(完了)に係る前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言		方針	
部等名称	福祉部	部長	川村 明		
総合計画・暮らしの夢（主要）					
福祉が充実し、「お互い様」と助け合える人の「わ（和・輪）」に支えられた暮らし					
この組織の施策の柱と目的					
施策の柱	施策名と目的				視点
みんなで助け合える地域社会の実現	<b>地域福祉の推進</b>				共助 自助 共生 共感 自立
	地域における生活課題が多様化・複雑化するなか、身近な地域の中で見守りや助け合いなどの福祉活動の促進を図るため、関係機関等による重層的なセーフティネットや地域福祉ネットワークを醸成し、支え合える福祉のまちづくりをめざす。				
生活困窮者への支援	<b>経済的困窮者への支援</b>				共助 自助 共生 共感 自立
	生活保護制度の適正な運用を図り、要援護者の自立助長に向けた支援に努める。また、経済的理由等による生活困窮者に対する自立相談支援の充実を図り、生活保護に至る前の自立支援策の強化を図る。				
障がい者の日常生活及び社会生活支援の推進	<b>障がい者の生活支援の充実／障がい者の社会参加の推進／医療費助成等</b>				共助 自助 共生 共感 自立
	障害者総合支援法等に基づくサービスの円滑な推進を図り、障がいのある人が地域で安心して暮らせる支援の充実に努める。				
高齢者の自立支援と地域包括ケアの充実	<b>生活支援サービスの充実／介護予防等サービスの充実／高齢者福祉の充実／社会保障</b>				共助 自助 共生 共感 自立
	医療・介護の連携の強化、認知症高齢者支援の充実など地域包括ケアシステムの推進に努めるとともに、介護予防や生活支援サービスの充実に努める。				
部長として果たそうとする役割、責任					
市民等利害関係者に対して	市民ニーズ等を的確に把握し、福祉施策推進の理解と協力を求める。				
市長・議会に対して	福祉施策の情報提供を行い、市の施策に反映させるための議論を行う。				
特に重点的に取り組もうと考えていること					
当面の重点的取組み			中期的にみた重点的取組み		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3期交野市地域福祉計画に基づく事業の推進</li> <li>・生活困窮自立相談支援の充実</li> <li>・交野市第4期障がい者福祉計画に基づく事業の推進</li> <li>・交野市高齢者保健福祉計画及び第6期介護保険事業計画に基づく事業の推進</li> <li>・地域包括ケアシステムの充実</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・各福祉計画の推進</li> <li>・権限移譲に対する対応</li> </ul>		
部長としてチャレンジしてみたいこと、前年度評価					
堅実性、信頼性を高めるために	28年度	各福祉計画の確実な推進を図り、市民サービスの向上に努める。 市民目線による相談・窓口対応の徹底			
	27年度	部内会議の開催による情報の共有と協力体制の整備【評価:B】 課を横断する事業の展開【評価:C】 各課における業務改善の実施と業務マニュアルの作成【評価:B】 「ホウレンソウ」の習慣づけと報告方法のシステム化【評価:B】			
創造性、面白さを求めて	28年度	市民（地域）への情報発信を積極的に行い、福祉施策の輪を広げていくコミュニケーションづくり			
	27年度	市民に愛される、気持ちのよい対応のできる職員の育成。【評価:B】 ゆうゆうセンターを市民の憩いの場、活性化の拠点にする【評価:B】 職員提案の機会づくり【評価:C】			

※前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言		組織力	
部等名称	福祉部	部長	川村 明		
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状					
強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民との協働が多い</li> <li>・福祉団体等との協働関係がある</li> <li>・専門的資格を持つ職員が多い</li> <li>・おりひめ支え合いプロジェクトなどを通じて、地域の福祉力が向上している</li> <li>・福祉窓口のワンフロア化</li> </ul>		弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉関係法、制度が頻繁に改正される</li> <li>・業務内容の複雑化</li> <li>・職員の年齢構成の偏り</li> <li>・専門職の人材確保</li> </ul>	
機会			脅威		
変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各福祉計画の推進</li> <li>・市民生活に直結している</li> <li>・地域の福祉力(人資源)が向上している</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化の進行</li> <li>・経済の低迷</li> <li>・扶助費や給付費の増大</li> </ul>		
取組	【機会を生かすための取組】		【脅威を変えるための取組】		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉計画推進のための関係機関等との協働</li> <li>・市民との協働と相互理解</li> <li>・関係機関との良好な連携強化</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各福祉計画の確実な推進</li> <li>・福祉相談機能の充実</li> <li>・市民、関係機関等の協働による事業の推進</li> </ul>		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと、前年度評価					
仕事の流れ (双方向)	(新規) 事業目標(目的、スケジュール等)の設定 (継続) 情報の共有化、報告・連絡・相談の徹底【評価:B】 (継続) 部内会議と毎朝の朝礼の実施【評価:A】 (完了) 各課事業での実施計画をたて、進捗管理をしていく【評価:B】 (完了) マニュアル化【評価:B】 (完了) 年度2回の職員ヒアリングを課長が行い、職員の要望や提案、悩みを把握する【評価:B】				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	(継続) 部内・課内会議の充実【評価:A】 (継続) 職員の提案、要望、困りごと等の把握【評価:B】 (完了) 部内連絡会の活性化【評価:B】				
意思決定 (仮説・スピード)	(新規) 部内検討会議の開催(随時) (継続) 合議制の徹底(担当で抱え込まない、悩まない)【評価:B】 (継続) ケース検討会議実施の徹底【評価:A】				
組織文化 (開放的・自発性)	(継続) 職員提案の機会づくり【評価:B】				
組織構造 (分権・変化対応)	(継続) 業務担当を複数にし、職員相互の協働とチェック機能を持たせる【評価:C】 (継続) 職場内研修の実施【評価:C】				
価値観 (創造性・つながり)	(新規) 業務の目的、方向性を職員間で意識統一 (継続) 窓口業務では、職員が市民に積極的に声をかけ、働きかけを行う【評価:A】 (継続) 職員が市民との協働を意識して業務に活かす【評価:B】 (継続) 市民の自発的な活動の推進を促す【評価:C】 (継続) 他課との交流、普段から顔の見える関係づくり【評価:B】				

※(継続)(完了)に係る前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言	方針
部等名称	環境部	部長	奥西 隆
総合計画・暮らしの夢（主要）			
身近な緑を愛し、守り、育て、自然との共生を楽しむ暮らし			
この組織の施策の柱と目的			
施策の柱	施策名と目的		視点
ごみの減量化とリサイクルの推進	<b>適正なごみ処理の取組／ごみの発生抑制及びリサイクル推進の啓発</b>		共助 共感 自治
	市民生活を衛生的で快適に行えるよう、廃棄物の適正処理を行う。市民・事業者・行政・地域組織が、「もったいない」という気持ちを認識・共有し、ごみの発生抑制、資源の循環利用を協力して行うことで、環境への負担をできる限り低減した循環型社会の形成を目指す。		
低炭素社会に向けた施策展開	<b>低炭素で持続可能な社会づくり</b>		共助 共感 共生
	地球環境にやさしい持続可能な社会づくりに向けた取り組みを、市民・事業者・行政が協働して事業展開を行う。		
生活環境の保全	<b>生活環境の保全</b>		自然 共感
	市民が心地よく住める環境を守り、公衆衛生の保全に努める。市民参画のもと環境基本計画を推進する。		
快適な生活環境をつくる	<b>自然環境の保全</b>		自然 共生
	既存の里山保全活動団体等と協力し、緑豊かな山地・里山の保全と活用を行う。また、近年拡大しているナラ枯れ木による被害防止等対策を実施する。		
施設の適正な維持管理・効率的な運営	<b>環境衛生の維持・向上</b>		自治
	平成 29 年度に新ごみ処理施設が稼働するまで、リサイクルセンター及び寺作業所を適正に管理・運営するとともに、新施設稼働後の旧 2 施設の跡地利用を検討する。乙辺浄化センターは老朽化が進み、し尿処理は民間の施設に委託しているが、処理責任は市に帰属しているので、将来的な運営についての検討を行う。		
部長として果たそうとする役割、責任			
市民等利害関係者に対して	安らぎや潤いのある生活環境の創出に努める。		
市長・議会に対して	事業計画や事業の進捗状況など、的確な情報提供を行い、対話・議論が行えるような環境を創出する。		
特に重点的に取り組もうと考えていること			
当面の重点的取組み		中期的にみた重点的取組み	
①新ごみ処理施設整備事業の推進 ②環境基本計画の推進		①廃棄物処理施設（乙辺浄化センター・リサイクルセンター）の管理運営のあり方の検討 ②廃棄物処理の業務運営についての検討	
部長としてチャレンジしてみたいこと、前年度評価			
堅実性、信頼性を高めるために	28 年度	適正なごみ処理のため、新ごみ処理施設の整備事業を推進する。市民、事業者、行政が一体となって、交野市環境基本計画に示されたビジョンの実現に努める。	
	27 年度	適正なごみ処理のため、新ごみ処理施設の整備事業を推進する。市民、事業者、行政が一体となって、交野市環境基本計画に示されたビジョンの実現に努める【評価:C】	
創造性、面白さを求めて	28 年度	市民及び事業者と協働のもと環境基本計画に示されたプロジェクトを推進する。市の特性を活かして、新しい魅力を創出する。	
	27 年度	市民及び事業者と協働のもと環境基本計画に示されたプロジェクトを推進する。市の特性を活かして、新しい魅力を創出する。【評価:C】	

※前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言	組織力
部等名称	環境部	部長	奥西隆
部の現状と取り巻く環境変化			
組織の現状			
強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物処理及びリサイクルは、近隣市と連携し、広域組合で対応している。</li> <li>・廃棄物処理施設の緊急時や災害時などの対応について近隣8市間で相互支援協定を締結し、処理協力体制を確立している。</li> <li>・ごみの分別やごみ出しマナーが良好であることから、ごみの減量化とリサイクルが推進されている。</li> <li>・環境保全等に取り組んでいる市民団体の活動が活発である。</li> </ul>	弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政状況の悪化</li> <li>・部署や施設が点在しており、まとまりに欠ける。</li> <li>・職務に関連する法令が多く、専門に担当する職員が割当てられないので深く理解できない。</li> </ul>
	機会		脅威
変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境基本計画の推進により、市民、市民団体及び事業者等が参加できる機会を増やす。</li> <li>・市民や事業者による山地や山林の維持管理活動(アドプト活動)</li> <li>・平成29年稼働予定の新ごみ処理施設建設事業の推進</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二京阪道路による環境への影響</li> <li>・公社保有地をはじめとする行政財産の管理活用</li> <li>・し尿及びごみ処理施設や設備等の老朽化が問題となっている。</li> <li>・地球温暖化による新たな環境問題の発生</li> </ul>
取組	<p>【機会を生かすための取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な人材確保</li> <li>・市民との協働による事業展開</li> </ul>		<p>【脅威を変えるための取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境監視の充実</li> <li>・組織横断した連携</li> </ul>
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと、前年度評価			
仕事の流れ (双方向)	(継続) 報告・連絡・相談(ほう・れん・そう)を重視した、きめこまやかな連携【評価:B】		
重点管理手法 (ビジョン・対話)	(新規)重要課題については、記録して進捗管理する (継続)部内会議・課内会議を定期的に行い、的確な情報伝達・意思決定を行う【評価:B】		
意思決定 (仮説・スピード)	(継続)意思決定プロセスの明確化、情報の重要度・緊急度のみきわめ【評価:B】 (継続)職員の政策形成能力やプレゼン能力の向上による意思伝達のスピード化【評価:B】		
組織文化 (開放的・自発性)	(継続)職員の能力開発の支援【評価:C】		
組織構造 (分権・変化対応)	(継続)業務内容、業務量による適材適所(専門性など)の職員配置【評価:C】		
価値観 (創造性・つながり)	(継続)市民との協働による環境保全【評価:C】		

※(継続)(完了)に係る前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言	方針
部等名称	都市整備部	部長	有岡 暢 晋
総合計画・暮らしの夢（主要）			
第二京阪道路をいかした、にぎわいのある暮らし			
この組織の施策の柱と目的			
施策の柱	施策名と目的		視点
暮らしを守る	安全・安心なまちづくり／災害に強いまちづくり		自助 共助 自立
	減災という視点に立ち、災害から被害の軽減を図るため、都市基盤施設の危機管理に努める。		
快適な生活環境を創る	都市環境の整備・充実		自助 共助 自立
	交野らしいまちづくり推進のため、より良い住環境の形成を図るとともに、ユニバーサルデザインの考えによる施設の整備・保全に努める。		
永住魅力を高める	秩序ある市街地の形成／魅力ある都市景観の形成		自然 共感 自立 共生
	景観資源の活用と保全による魅力ある都市景観の形成。 市民の足である公共交通の確保に努める。		
活力と賑わいを創る	秩序ある計画的なまちづくりの推進		自助 自立 共生
	土地所有者の意向を踏まえた計画的なまちづくりや雇用の場の創出を図る。		
環境を守る	秩序ある市街地の形成		自然 共感
	適正な規制誘導による良好な市街地形成及び都市の緑である生産緑地の保全に努める。		
部長として果たそうとする役割、責任			
市民等利害関係者に対して	情報提供の徹底による市民との対話を通じ、課題の解決や協働の場を創出する。		
市長・議会に対して	事業推進の明確な説明と提言 情報の共有		
特に重点的に取り組もうと考えていること			
当面の重点的取組み		中期的にみた重点的取組み	
<ul style="list-style-type: none"> <li>増え続ける業務量に対して効率的に処理できる体制づくりと職員への負荷軽減</li> <li>施設管理における危機管理（老朽化対策を含む。）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>従来型とちがう浸水対策の推進</li> <li>総合交通体系の確立に向けた取り組み</li> <li>下水道不明水対策の推進</li> <li>二国沿道まちづくり（星田駅北エリア）の促進</li> <li>管理施設の長寿命化対策の推進</li> </ul>	
部長としてチャレンジしてみたいこと、前年度評価			
堅実性、信頼性を高めるために	28年度	市民の意見要望等に対するフォローアップ	
	27年度	市民・事業者・行政の役割の明確化 各々が事案に対して迅速に対応できる組織づくり 【評価:B】	
創造性、面白さを求めて	28年度	地域のニーズを踏まえた取組	
	27年度	地域・事業者等の連携の模索で、協働体制を確立 【評価:A】	

※前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった



		部長宣言		組織力	
部等名称	都市整備部		部長	有岡 暢 晋	
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状					
強み	小組織による職員間のつながりは強い 職員の勤勉性 長期職員配属による専門性及び継続性		弱み	突発的事象への迅速な対応 未経験事務における職員の意識の希薄 長期職員配属による業務意欲の維持	
	機 会		脅 威		
変化	農地減少による治水や町並みの変化 少子高齢化等社会構造の変化 補助制度等の変化		職員数の減少・超過勤務の常態化 協力ボランティアメンバーの高齢化 公共施設(道路・橋・下水管等)の老朽化		
取組	【機会を生かすための取組】		【脅威を変えるための取組】		
	職員の勤勉性、職員間の強いつながりを生かし、 的確な指示・指導により、事業の円滑化や職場全 体で課題解決を図る。		脅威を機会に変えるためには、人材の育成(特に、技術 職)を行う。		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと、前年度評価					
仕事の流れ (双方向)	(新規) 事業推進調整会議の充実 (継続) 各種業務マニュアルの整備、事務処理時間の確保【評価:C】				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	(新規) 効率的・計画的かつプライオリティによる業務遂行 (継続) 部内・課内会議の充実 【評価:A】				
意思決定 (仮説・スピード)	(新規) 的確な指示、情報伝達 (継続) 部内・業務におけるホウレンソウ(報告・連絡・相談)の徹底【評価:A】				
組織文化 (開放的・自発性)	(新規) コミュニケーションの向上 (継続) 課題に対し、自由に議論できる場の設置【評価:B】				
組織構造 (分権・変化対応)	(新規) チェック体制の確立 (継続) 継続性が担保される業務ごとのメイン・サブの二人体制の確立【評価:B】				
価値観 (創造性・つながり)	(新規) 新しい発想やアイデア、チャレンジが演出される環境づくり (継続) 市民等との対話による創造力の向上【評価:B】				

※(継続)(完了)に係る前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言	方針
部等名称	学校教育部	部長	北田 千秋
総合計画・暮らしの夢（主要）			
子どもや若者が、それぞれの個性を育み、のびのびと遊び、学ぶ暮らし			
この組織の施策の柱と目的			
施策の柱	施策名と目的		視点
基礎・基本の確実な定着と確かな学力の育成をめざす教育の推進	「確かな学び」が実感できる学校運営		自助 共助
	児童生徒の学習状況を的確に把握しながら基礎・基本の定着を図るとともに、授業改善のためのPDCAサイクルを確立させることにより、「確かな学力」を身につけることができるよう、学校を指導・支援する。		
人権教育・心の教育を基盤とした個性を伸ばす教育の推進	豊かな人間性と夢を育む学校運営		自助 共助
	すべての児童生徒が、自己の可能性を伸ばし、よりよい社会を創っていかうとする態度を育むとともに、未来に夢や希望を持ち、自らの人生や新しい社会を切り拓く力の育成に努めるよう、学校を指導・支援する。		
学校経営の自主性・自律性と特色ある学校づくりの推進	地域に根ざした特色ある学校運営		自助 共生 共助
	学校・家庭・地域がそれぞれの教育機能を発揮し、有機的に結合させ、協働による継続的に子どもにかかわるシステム作りを推進する。地域の人材を活用した教育活動の充実を図り、学校が家庭・地域と連携して子どもたちを育てていくという視点に立った開かれた学校づくりに努める。		
安全で快適な学校環境の整備	学校施設の整備及び安全確保/学校保健の充実		自助 共助
	学校施設の整備及び安全を確保し、安心な教育環境づくりを図る。（維持管理、老朽対策事業、環境改善事業、通学路の安全確保等） 学校保健の充実を図り、児童生徒及び教職員の保健・健康管理を行う。		
経済的理由により就学困難な児童・生徒への教育の機会均等	就学支援の充実		自助 公助
	経済的な理由により就学が困難な児童生徒に対して、学用品や給食費等の経費の一部を支給することにより、教育の機会均等を図るとともに、保護者の経済的負担の軽減を図る。		
安全で栄養のバランスに配慮した魅力ある学校給食	学校給食の充実		自然 自助
	児童生徒に安全で栄養のバランスに配慮した魅力ある給食を提供することにより、児童生徒の健全な発達と望ましい食習慣の形成の推進を図る。学校と連携し、食育の推進を図る。		
部長として果たそうとする役割、責任			
市民等利害関係者に対して	特色ある教育課程の編成・実施できるよう、学校に対し指導・助言を行う。 児童生徒が安全な学校生活を送れるよう教育環境の整備を行う。		
市長・議会に対して	「市長戦略」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「教育大綱」のビジョンや理念に則り、学校教育の伸展に努める。		
特に重点的に取り組もうと考えていること			
当面の重点的取組み		中期的にみた重点的取組み	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校間の連携推進</li> <li>・次期改訂学習指導要領への対応（アクティブ・ラーニング、特別支援教育、道徳、小学校英語等）</li> <li>・学校、家庭、地域による協働体制の構築</li> <li>・新学校給食センターへの円滑な移行</li> <li>・施設維持管理と部分的老朽化対策</li> <li>・非構造部材の耐震化</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の情（こころ）を育み、「変化する力・変化に対応する力」を育成</li> <li>・児童生徒数減少に伴う学校規模の適正化</li> <li>・小中学校のトイレ改修</li> <li>・非構造部材の耐震化</li> <li>・学校施設の老朽化対策（大規模改修等）</li> <li>・特別教室への空調機器整備</li> </ul>	
部長としてチャレンジしてみたいこと、前年度評価			
堅実性、信頼性を高めるために	28年度	「教育は交野」といわれるよう、授業の充実支援や生徒指導体制作りなどのソフト面と校舎の防水対策等のハード面を向上させ、学習環境を充実させる。	
	27年度	教育方針や教育活動に関する情報を積極的に地域・家庭に発信する。【評価:B】 学校運営の透明性を確保するために、情報公開等により説明責任に努める。【評価:B】	
創造性、面白さを求めて	28年度	学校（校長）が、横並びではなく、より特色を出し向上しようとする意欲が高まる環境をつくる。	
	27年度	特色ある学校づくりの推進と学校力の向上のため、学校（校長）が新たなことに挑戦しようとする環境づくり。【評価:B】	

		部長宣言		組織力	
部等名称	学校教育部	部長	北田 千秋		
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状					
強み	実効性のある教職員研修を実施している。 施設管理担当による適切な保守管理が実施できている。 部門毎では、役割分担と連携が図れている。		弱み	学校管理・学校給食部門において正規職員の比率が事務系現業系とも低い。 業務量の増加。特に、課をまたぐ業務の増加。	
機会			脅威		
変化	小・中学校において、特色ある学校づくりをすすめる教育活動が展開されている。 国における予算等の活用。 新学校給食センターへの取組み。		学校施設の老朽化。 児童生徒の減少による、学校規模の大きな差。		
取組	【機会を生かすための取組】		【脅威を変えるための取組】		
	学校訪問、校長ヒアリングによる実態把握。 学校・地域との連携。 臨時組織の構築。 部課内のジョブ・ローテーション。		補助金の有効活用と計画性。 新学校給食センターへの円滑移行。 学校給食衛生管理の強化徹底。 各課に指導主事の適切な配置を検討。 非常勤職員等の活用及び委託化の検討。		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと、前年度評価					
仕事の流れ (双方向)	(新規)「市長戦略」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「教育大綱」のビジョンや理念の共通理解 (継続) 情報の共有化、マニュアル作成 【評価:C】 (完了)「交野市学校教育ビジョン」の理念の共通理解 【評価:A】				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	(新規)後期「交野市学校教育ビジョン」策定にむけての、課内、課外との連携推進 (継続)学校・地域との連携を図り、特色ある教育の推進 【評価:B】 (継続)目標設定と進行管理 【評価:C】 (継続)各課間の連携 【評価:C】				
意思決定 (仮説・スピード)	(新規)無駄な「ホウ・レン・ソウ(報告・連絡・相談)」を廃止し、適切なタイミングで、意思のある「ホウ・レン・ソウ」の実行 (継続)学校の情報に指導主事だけでなく、部内で共有 【評価:C】 (継続)発想力と展開力及び判断力 【評価:C】 (完了)部内会議の定例化 【評価:A】				
組織文化 (開放的・自発性)	(新規)労働安全衛生管理の一層の推進 (継続)多様な業務を取捨選択したうえで、教育行政担当者として意識の一層の向上【評価:C】 (継続)職員の主体性、自主的な創意工夫 【評価:B】				
組織構造 (分権・変化対応)	(新規)新学校給食センターが円滑に移動する組織体制づくり (継続)事務分掌の整理、部内連携の徹底 【評価:C】 (完了)新学校給食センターの整備に向けて組織体制強化 【評価:B】				
価値観 (創造性・つながり)	(新規)「やらされ感」のない職場づくり (継続)必要性の少ない協議会や連絡会の統合や廃止 【評価:C】 (継続)モチベーションの維持向上 【評価:C】				

※(継続)(完了)に係る前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言		方針	
部等名称	生涯学習推進部	部長	松川 剛		
総合計画・暮らしの夢（主要）					
子どもや若者が、それぞれの個性を育み、のびのびと遊ぶ、学ぶ暮らし					
この組織の施策の柱と目的					
施策の柱	施策名と目的				視点
スポーツ活動の促進	<b>スポーツ活動の充実／スポーツ・文化施設の充実</b> 市民が生涯にわたって、スポーツに親しみ、健康で明るいライフスタイルが実現できるよう生涯スポーツの推進、振興を図るとともに、スポーツ指導者の育成及び体育施設の効率的な維持・管理に努める。				自助 共助 共感
文化活動の促進	<b>文化活動の充実</b> 市民のニーズに応えられるよう、生涯学習の機会と場を提供し、市民が心身ともに健康で豊かな生活を過ごすことができるよう文化活動の促進に努める。				自助 共助 共感
文化財保護	<b>文化財保護の充実</b> 交野の文化遺産や伝統文化を次世代に継承していくために、専門的な見地から適切な保存と活用を図り、市民の理解と愛護意識を高め、ボランティアなどとの連携・協働のもと文化財保護活動を推進する。				自助 共助 共感
青少年の健全な育成	<b>青少年の健全な育成／放課後児童会の運営</b> 青少年の安全・安心な活動を確保し、創造性や協調性・生きる力を育む環境づくりに取り組むため、ボランティア活動や生活・自然体験活動などの充実に努める。また、放課後児童会では運営内容と施設の充実に努め、児童の健全育成を図る。				自立 共助 共感
図書館活動の推進	<b>図書館活動の充実</b> 市民の多種多様なニーズに応える情報センターとして情報の収集及びその提供・発信に努める。また、市民の教養・趣味を育むとともに、次世代の子どもたちの図書館利用と読書活動を支援する。				自立 共助
部長として果たそうとする役割、責任					
市民等利害関係者に対して	市民の多種多様なニーズを的確に把握し、生涯にわたって学べるよう、生涯学習施策の推進への理解と協力を求める。				
市長・議会に対して	生涯学習推進部に対する市民ニーズを的確に把握し、生涯学習施策の情報を提供し、市の施策に反映させるための議論を行う。				
特に重点的に取り組もうと考えていること					
当面の重点的取組み			中期的にみた重点的取組み		
放課後児童会施設的环境整備 ふれあい館のあり方の検討 学校図書館支援事業の推進 指定管理者との連携・協議 放課後子ども総合プランの推進 交野市生涯学習ビジョンの策定			私部城跡史跡指定に向けた取り組み 生涯学習施設の適切な活用・維持管理		
部長としてチャレンジしてみたいこと、前年度評価					
堅実性、信頼性を高めるために	28年度	職員全員が責任感を持ち公務員としてのプロ意識向上の為、日々スキルアップに努める。			
	27年度	情報提供の徹底による市民との対話を通じ、課題の解決や協力体制の場を創出する。【評価:B】			
創造性、面白さを求めて	28年度	生涯学習に関連する団体の自主的な運営に向けた支援			
	27年度	市民生活を豊かにするため、多種多様な学習機会の提供を行うとともに、生涯学習に関連する団体の自主的な運営に向けた支援を行う。【評価:C】			

※前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言		組織力	
部等名称	生涯学習推進部		部長	松川 剛	
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状					
強み	市民が楽しめる生涯学習施設を持っている。各種団体並びに大学等と関係していることから、団体等を通じての学識と組織力、それに伴う動員力がある。		弱み	生涯学習施設の老朽化。少子化による子どもの減少と団体加入者の高齢化	
機 会			脅 威		
変化	文化祭・市民スポーツデー等における各種団体との文化・スポーツ活動の展開。摂南大学との連携。		将来、組織を維持できない団体が増加する恐れが懸念される。		
取組	【機会を生かすための取組】		【脅威を変えるための取組】		
	指定管理者並びに各種団体及び大学等との相互連携による学習活動。		各種団体の自主自立に向けての自主的な運営に向けた支援		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと、前年度評価					
仕事の流れ (双方向)	(新規) 課のスキルアップ (継続) 報告、連絡、相談の徹底。【評価:B】 (継続) 親切、丁寧な受付と内部業務の連携による迅速な事務処理。【評価:B】				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	(新規) 目標管理型評価制度の進行管理。 (継続) 部及び課としての業務決定事項等の迅速な伝達及び業務管理。【評価:B】				
意思決定 (仮説・スピード)	(継続) 庁内・部内・課内会議にて、各職員が情報を正確に共有する。【評価:B】				
組織文化 (開放的・自発性)	(継続) 風通しの良い組織。【評価:B】 (継続) 個人の長所を發揮させながら、組織で最大の効果(結果)をあげる。【評価:B】				
組織構造 (分権・変化対応)	(継続) 情報提供の徹底と予防を重視したリスクマネジメントの実践、柔軟で機敏な組織をめざす。【評価:B】				
価値観 (創造性・つながり)	(継続) 市民にとって親しみのもたれる職場。【評価:B】 (継続) 組織どうして応援しあう。【評価:A】				

※(継続)(完了)に係る前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言		方針	
部等名称	消防本部	理事	平 井 正 喜		
総合計画・暮らしの夢（主要）					
地球環境に思いをさせ、我がまちは我が手で守る暮らし					
この組織の施策の柱と目的					
施策の柱	施策名と目的				視点
消防体制の充実	消防体制の充実				共助
	災害から、市民の生命、身体、財産を守るため、車両等の資機材整備を充実させる。また、大規模災害時においては、隣接消防間での応援体制の充実強化を図る。				
救急体制の充実	救急体制の充実				自助 共助
	救命率向上のため、最新の救命資機材を整備するとともに、市民に対して応急手当の普及啓発活動を推進する。				
火災予防の啓発	火災予防の啓発				自助 共助
	火災のない安全なまちを目指して、防火啓発活動を推進し、市民の防火・防災意識の高揚を図る。				
部長として果たそうとする役割、責任					
市民等利害関係者に対して	火災等の災害による被害を少しでも軽減させることを目標とする。特に救急活動においては、市民のニーズにあった活動を心掛ける。				
市長・議会に対して	市民の代表であることを念頭におき、しっかりと意思の疎通を図りながら、迅速・的確な情報提供に努める。				
特に重点的に取り組もうと考えていること					
当面の重点的取組み			中期的にみた重点的取組み		
・枚方寝屋川消防組合と消防指令業務の共同運用を円滑に継続するとともに、救急搬送体制の充実強化や消防広域化を含めた相互応援体制の充実強化についても検討する。			・消防力充実強化のため、職員の増員、スキルアップに努め、消防車両等の充実強化を図る。 ・市民の防火・防災意識を高揚させるため、更なる啓発活動の推進。		
部長としてチャレンジしてみたいこと、前年度評価					
堅実性、信頼性を高めるために	28年度	職員各自が消防吏員としてのプロ意識を持ち、スキルアップに努める。			
	27年度	職員各自が消防吏員としてのプロ意識を持ち、スキルアップに努める。 【評価:B】			
創造性、面白さを求めて	28年度	火災等の災害活動だけではなく、交野市の職員として、色々な形で市民に行政サービスが提供できるよう心掛けたい。			
	27年度	火災・救急等の災害活動だけではなく、交野市の職員として、色々な形で市民に行政サービスが提供できるよう心掛けたい。【評価:B】			

※前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言		組織力	
部等名称	消防本部	理事	平 井 正 喜		
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状					
強み	大規模災害時の大阪府下相互応援協定、緊急消防援助隊等の応援協定。 通常時は、枚方寝屋川消防組合との消防指令業務共同運用に伴う相互応援体制。	弱み	団塊の世代の退職により、職員の若年化が進み、消防技術の伝承に不安。		
機 会			脅 威		
変化	大規模・特殊災害及び集団災害。	南海トラフ地震等、府県をまたぐような広域で発生する災害の対応。			
取組	【機会を生かすための取組】		【脅威を変えるための取組】		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少数精鋭で対応できるよう、職員各自がスキルアップに努める。</li> <li>・近隣消防間での相互応援体制の充実を図る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防団と連携を図りながら、地域防災力の強化を図る。</li> <li>・避難訓練や救命講習会の際、積極的に防火・防災の啓発活動を推進。</li> <li>・大阪府下相互応援協定や緊急消防援助隊等の活用。</li> </ul>		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと、前年度評価					
仕事の流れ (双方向)	(継続) 毎朝、各課の調整会議を行い、月1回管理職の全体会議を実施。【評価:B】				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	(継続) 積極的に職員の意見を取り入れ、職務に反映できるよう努める。【評価:B】				
意思決定 (仮説・スピード)	(継続) あらゆる災害に即応できるように、多種多様な想定訓練を実施。【評価:B】				
組織文化 (開放的・自発性)	(継続) 職員のスキルアップを図るため、積極的に研修会、講習会等への参加。【評価:B】				
組織構造 (分権・変化対応)	(継続) 各課の連携を強化すること。また、消防団、警察とも連携を強化する。【評価:B】				
価値観 (創造性・つながり)	(継続) 市民が安心して暮らせる災害に強いまちづくり 【評価:B】				

※(継続)(完了)に係る前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言		方針	
部等名称	水道局	部長	青木成敏		
総合計画・暮らしの夢（主要）					
つながりを大切に、まちの職員がほどよく支える暮らし					
この組織の施策の柱と目的					
施策の柱	施策名と目的				視点
水道事業の安全・強靱・持続	健全な運営を持続する「水道」				自然共感共助
	水道事業を適切に運営するため、事業経営の安定性を確保する。				
	安心・安全な水道水を安定的に供給する「水道」				自然共感共助
	市民に安全でおいしい水を安定的に供給する。管路を含む施設の耐震化の推進。				
部長として果たそうとする役割、責任					
市民等利害関係者にたいして	いつでもおいしい安全な水道水の供給を行う。 的確な財政計画を策定し、健全な事業運営を行う。				
市長・議会に対して	中長期的な財政計画を策定し、状況の変化に伴い見直しを行い、遅延なく報告を行う。				
特に重点的に取り組もうと考えていること					
当面の重点的取組み			中期的にみた重点的取組み		
<ul style="list-style-type: none"> <li>第6次拡張事業の推進(私市ポンプ場築造)</li> <li>企業団用水受水管の更新</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>基幹管路(導・送・配水管)の更新・耐震化</li> <li>給水管(鉛管)の取替</li> </ul>		
部長としてチャレンジしてみたいこと、前年度評価					
堅実性、信頼性を高めるために	28年度	「交野市水道ビジョン」の策定するための、資料収集を行う。			
	27年度	「交野市水道ビジョン」の策定を行う。【評価:D】			
創造性、面白さを求めて	28年度	引きつづき「交野の水道水」のおいしさをアピールしていく。			
	27年度	「交野の水道水」のおいしさを知ってもらう。【評価:A】			

※前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった



		部長宣言		組織力	
部等名称	水道局	部長	青木成敏		
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状					
強み	・自己水としての「地下水」が豊富 ・第6次拡張事業の推進		弱み	・専門技術職員の減少 ・業務量、事務量の増加	
	機会		脅威		
変化	・水道システムの充実(「星の里浄水場」安定した運用。「私市ポンプ場」等の築造) ・安全で安心した水の供給		・施設の老朽化(管路) ・地震等大規模災害の発生		
取組	【機会を生かすための取組】 ・アセットマネジメントによる財政的見地に立った更新計画		【脅威を変えるための取組】 ・「水安全計画」による見直し体制 ・管路管理システムの構築		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと、前年度評価					
仕事の流れ (双方向)	(継続) 民生活を有効に利用した、職員の能力を発揮できる職場づくりを行う【評価:B】				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	(継続) 職員とのコミュニケーションを図り、実効性のある、新たな「交野市水道ビジョン」を検討する【評価:B】				
意思決定 (仮説・スピード)	(継続) 持ち場の仕事を理解し、適切な計画・行動を図る【評価:A】 (完了) 「水安全計画」の作成【評価:A】				
組織文化 (開放的・自発性)	(継続) 職場の課題を目標として設定し、取り組む【評価:A】 (継続) 指示されるのではなく、考え、提案し、行動に移せる専門性の確立【評価:B】 (継続) 市民に対し、「お客さまである」との意識づくり【評価:B】				
組織構造 (分権・変化対応)	(継続) 専門性のある技術職員が少ないことから、職域を越えた相互応援出来る組織体制づくり【評価:B】 (継続) 協調性のある職場環境を整えることにより、仕事の効率を図る【評価:B】				
価値観 (創造性・つながり)	(継続) 交野の水は、職員一人一人が守り、市民に安心して飲んで頂くという自覚を持つ【評価:A】 (継続) 職員が積極的にイベントに参加し、市民とふれあい、交野の「ブランド」として、共に認識する【評価:A】 (完了) 星の里浄水場の完成に伴い、自己水と企業団水の2系統受水することによる「安全」「安心」「安定」がより強化され、市民に満足してもらえる【評価:B】				

※(継続)(完了)に係る前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった

		部長宣言	方針
部等名称	議会事務局	部長	濱中 嘉之
総合計画・暮らしの夢（主要）			
つながりを大切に、まちの職員がほどよく支える暮らし			
この組織の施策の柱と目的			
施策の柱	施策名と目的		視点
議会運営の補佐	議会運営の補佐		共生 共助 自立
	議会事務局の本来的業務にあたるが、取り巻く社会情勢の変化により著しく変容する議会運営（議会改革等）において、柔軟に対応できる体制づくりに努める。		
議会への支援	議会の政策立案機能や監視機能への支援		共生 共助 自立
	議会改革の主要テーマとなっている政策立案機能の強化において、議会に対し、情報収集や法的適合性などのアドバイスを行う。		
執行機関との調整	議会と執行機関との調整		共生 共助 自立
	執行機関との間に立って、議会側の意向を的確に執行機関へ伝え、両者の調整を行う。		
住民との媒介	議会と住民との媒介		共生 共助 自立
	議会への住民参加を目指す取り組みのもと、市民にとって議会への身近な窓口となるように努める。		
部長として果たそうとする役割、責任			
市民等利害関係者に対して	開かれた議会となるよう、議会の情報を適切に市民へ提供するように努める。		
市長・議会に対して	議事が瑕疵なく、円滑に行われるように努める。		
特に重点的に取り組もうと考えていること			
当面の重点的取組み		中期的にみた重点的取組み	
<ul style="list-style-type: none"> <li>議会改革のサポート</li> <li>近畿市議会議長会の事務（平成 28 年度副会長市、平成 29 年度会長市となる予定）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局職員体制の充実</li> <li>職員の法務知識の向上</li> </ul>	
部長としてチャレンジしてみたいこと、前年度評価			
堅実性、信頼性を高めるために	28 年度	議会事務局の“在り方”の調査・研究	
	27 年度	業務マニュアル等の整備、職員のスキルアップ【評価:C】	
創造性、面白さを求めて	28 年度	近畿市議会議長会を通じた新たなネットワークの構築	
	27 年度	—	

※前年度評価について、A: 積極的な取組ができた、B: 概ねできた、C: 少しはできた、D: できなかった

		部長宣言		組織力	
部等名称	議会事務局		部長	濱中 嘉之	
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状					
強み	少人数による情報共有の容易さ		弱み	経験豊富な人材が少なく、専門知識が不足	
機会			脅威		
変化	平成 28 年度に近畿市議会議長会の副会長市及び平成 29 年度に近畿市議会議長会の会長市となる予定。				
取組	【機会を生かすための取組】		【脅威を変えるための取組】		
	近畿市議会議長会の副会長市及び会長市となることから、事務を担う体制づくり及び人材の確保を図る一方で、職員にさまざまな経験の場を与え、人材の育成に努める。				
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと、前年度評価					
仕事の流れ (双方向)	(新規) 議員との意識共有・信頼関係 (継続) 報告・連絡・相談の徹底【評価:A】				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	(新規) 近畿市議会議長会(H28年度副会長市予定)における情報共有 (継続) 事務局内での会議の充実【評価:B】				
意思決定 (仮説・スピード)	(新規) 迅速な判断、的確な指示 (継続) 効率的な事務処理【評価:C】				
組織文化 (開放的・自発性)	(新規) 前例や慣習の再考 (継続) 勉強会の実施【評価:C】				
組織構造 (分権・変化対応)	(新規) 自主性の尊重 (継続) 事務局職員が全ての担い手となるための組織づくり【評価:B】				
価値観 (創造性・つながり)	(新規) 議会改革につながる新たな発想や柔軟な取り組みが創出されるための職場環境の整備 (継続) 議会改革の理解力向上【評価:A】				

※(継続)(完了)に係る前年度評価について、A:積極的な取組ができた、B:概ねできた、C:少しはできた、D:できなかった